

ACT 研修を受けてきました②

12月に発行した支援教育部ニュース（ATCについて）の具体例となります。
ACT(アンガーコントロールトレーニング)のなかで、私たちが児童・生徒の行動を考えるにあたり、なぜそのような行動に至ったのか、「見立て」を立てることが大切となってきます。その「見立て」を支援者で共有することで、支援方法の足並みを揃えることができます。

「見立て」において重要なのは、問題行動と思われるきっかけや結果を **客観的な事実** として考えることです。支援者の主観が入ってしまうと、問題行動を起こすまでのきっかけや認知のゆがみに気づきにくくなります。

example

支援者の主観が入ったとらえ方	客観的事実
睨んでいた	目を細めていた
殴ろうとした	腕を上げた
暴言や悪口をいう	〇〇という
よけない	その場に立っている

また、問題行動や逸脱行動と呼ばれる行動には **4つの意味** があります。

- ①要求(欲しいもの、したいこと)を得るため
(例：絵本を見たいから、廊下から動かない。)
- ②注目を得るため
(例：教員に追いかけてほしくて、外に飛び出す。)
- ③拒否や拒絶
(例：プリントをしたくないから大きな声で叫ぶ。)
- ④快の感覚を得るため
(例：することが無いときに、机をたたいて刺激を得る。)



支援者全員で、客観的事実をもとに行動の背景を見立て、統一した支援を行い児童生徒の成長に寄り添っていきましょう。